

整理番号 2017M-006

補助事業名 平成29年度 I C T 社会における安全・安心確保に関する補助事業

補助事業者名 一般社団法人日本教育情報化振興会

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

教育現場のICT安全安心対策研究実施のため4つのWGを設け「情報モラル指導充実のためのWG」「情報モラル指導評価指標委員会、情報モラル指導評価指標作問WG」「コミュニケーション力育成WG」「オンラインベターライフWG」を四本柱として活動する。

#### 1. 情報モラル指導充実のためのWG

- ・ 専門家、有識者約8名からなる委員会の設置
- ・ 教育委員会等の要望に添った情報モラルセミナーの開催、研修テキストの作成実施
- ・ 新学習指導要領に合わせたコンテンツの改修、パンフレットの作成
- ・ 情報モラル教材のキット化

#### 2. 情報モラル指導評価指標委員会と情報モラル指導評価指標作問WG

- ・ 作問すべき内容、作問WGで開発された問題を審査する指導評価指標開発委員会を設置
- ・ 専門家、有識者20名による作問委員会を設置
- ・ 作文委員会では、さらに100問以上の問題を追加作成。作問にあたっては、年間1回の合宿による集中審議を実施する。またC B Tで実施するため解説機能を充実させるため外部のS Eに委託する。

#### 3. コミュニケーション力育成WG

- ・ 専門家、有識者約12名からなる委員会の設置
- ・ コミュニケーション力育成のための研修は、次の2つの形式で開催する。
  - － 全国7ヶ所において会場を選定し、委員5名程度を派遣しワークショップ形式で研修を開催
  - － 研修は開催会場の近隣の教育委員会から教員に招集をかけ参加を募集

#### 4. オンラインベターライフWG

- ・ 専門家、有識者からなる委員会の設置
- ・ 保護者向けの情報モラル・リテラシー教育教材の開発
- ・ 保護者向けの情報モラル・リテラシー教育研修の実施

#### 5. 事業成果は3月開催の成果発表会やホームページ等で発表公開する

### (2) 実施内容

教育現場の I C T 安全安心対策検討委員会にそれぞれのワーキンググループ長を委員とした委員会を置き、そこに下記の4つのワーキンググループを設置し、それぞれの研究方法により I C T の安全安心活用について研究を実施している。

①「ネット社会の歩き方」情報モラルセミナー事業

(<http://www.japet.or.jp/ActivityReport/netwalk/>)

地域の指導的な立場の教員に対し情報モラルが指導できるよう指導者育成を実施、主に情報モラルやセキュリティに関するセミナーを実施できる指導者を養成、その指導のための教材としてセミナーで使用した教材・情報を提供、さらに家庭等でも「情報モラル」が親子のコミュニケーションの題材となるような新たな事例への対応を盛り込んだコンテンツ等情報の提供を行っている。

ネット社会の歩き方教材 (<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>)



「ネット社会の歩き方 ナビカード教材」の開発

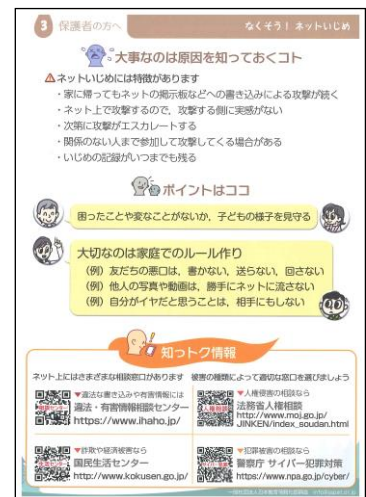
先生方や保護者の方からのニーズの高い問題を厳選して、カード型教材を作成した。今後、最新の状況を反映させて改訂するごとにカードを変えたり差し替えたりしながら末永く使えるようになっている。



(ナビカード教材のカバー)



(教材の例 表面)



(教材の例 裏面)

## ネット社会の歩き方講師育成セミナー（15ヵ所での開催）



（徳之島町教育委員会）



（高校生向けセミナー）



（熊本市教育委員会）



（高知県教育委員会）

## ②コミュニケーション力育成のための事業

<http://www.japet.or.jp/Case/21ccom/>

言語は、コミュニケーションや感性・情緒の基盤であり、子どもの人間性の成長に深く関わっている。そこで、これからの「ICT社会におけるコミュニケーション力の育成」を、学習活動の中にどのように取り込んでいくか、その取組を支援する研修を企画し、全国で実施した。今年度は、全国7地域（新潟、鹿児島、大阪、和歌山、栃木、沖縄、東京）で開催した。



新潟セミナー（平成29年5月27日）



栃木セミナー（平成29年7月1日）

### ③情報モラル指導評価指標開発のための事業

(<http://www.japet.or.jp/ActivityReport/moraltest/>)

近年、スマートフォンやゲーム機の普及とSNSや無料通話アプリの登場に伴い、児童生徒のスマートフォンの保有率が上がっている(1)。特に、高等学校の生徒は約96%が保有しているが、生徒自身、保護者ともその利用についてルール等を決めていないという現状があり、その結果、コミュニティサイト等での被害が増えている。

これまで情報モラルの指導を充実させるために、「ネット社会の歩き方」教材を開発するなど、情報モラル教育の指導者を育成してきた。これにより、多くの児童生徒が情報モラル教育を受ける機会が増え、その知識を身につけつつある段階に至ったと考えている。

本事業では、昨年度に情報モラル指導評価指標を開発した。具体的には、児童生徒がネット社会を生き抜いていくためには、どのような知識や対応能力が必要なのかを明確にし、それを測定する手段として、小・中・高等学校の児童生徒を対象としたCBTの試験運用を実施し、それによって判明した課題について改善を検討した。さらに、開発した問題を精査して、問題の改善に努めた。



テスト問題改善検討風景

### ④保護者のための情報モラル事業

(<http://www.japet.or.jp/ActivityReport/親子のための情報モラル/>)

保護者の現状として、ICTリテラシーやICT機器操作スキルが追いついていない状況にある。保護者は、学校でICT教育を十分に受けていない世代のため、子どもたちに指導ができていない。その一方で、保護者を啓発する必要性に迫られている。

保護者もICTリテラシーを身につけ、子どもに指導したいと思っているが、学ぶ機会が用意されていない。そのため、本来は家庭で行うべき教育が、学校任せになっている。保護者自身が、将来の情報社会のあり方を見据え、未来の情報社会において、子どもがどのような役割をはたすか、どのようなスキルを身につけなければならないかについて考えることが求められている。本委員会では、実際、自らICTや将来の情報社会について学ぶことにより、自ら成長するきっかけにもなるように、保護者向け情報モラル教材および情報活用能力を身につけることを目的とする。具体的には、より詳しく現状を調査し、それに基づき情報リテラシー教材の開発と研修を行った。





委員会の風景  
(平成28年7月24日)



J A E T 和歌山大会セミナーの様子  
(平成28年10月25日)

## 2 予想される事業実施効果

身近になったインターネットであるが、その利用により手軽に多くの情報を入手したり、見知らぬ人々とコミュニケーションを取ったり、自宅での買い物も手軽にできるなど、様々なことが手軽にかつ安全安心にできるようになると同時に、もう一方では児童・生徒がSNSや無料ゲームなどのコミュニティサイトで犯罪などに巻き込まれる事例も発生している。

日本教育情報化振興会では、児童・生徒の安全安心を願い「教育現場のICT安全安心対策事業」を展開している、この活動は広く公開されているため、教育界だけではなく、保護者への啓発としても有効であり、地域、家庭での安心安全への意識を高めることができる。

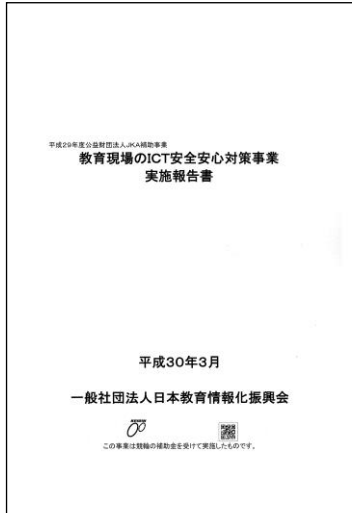
### 3 補助事業に係る成果物

#### (1) 補助事業により作成したもの

##### ①教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書

##### 教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書

([http://www2.japet.or.jp/jkahojo/H28\\_hokoku.pdf](http://www2.japet.or.jp/jkahojo/H28_hokoku.pdf))



##### 教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書

([http://www2.japet.or.jp/jkahojo/H29\\_hokoku.pdf](http://www2.japet.or.jp/jkahojo/H29_hokoku.pdf))

#### 教育現場のICT安全安心対策事業実施報告書 目次

<b>目次</b>	
<b>第1章</b> ..... 1	
<b>情報モラル指導充実のための事業</b> ..... 1	
1. 事業の目的..... 2	
2. 作業項目とスケジュール/作業体制..... 3	
3. セミナー開催..... 6	
4. 成果発表会..... 20	
5. まとめ..... 21	
<b>第2章</b> ..... 22	
<b>コミュニケーション力育成のための事業</b> ..... 22	
1. 事業の目的..... 23	
2. 作業項目とスケジュール/作業体制..... 24	
3. セミナー開催..... 26	
4. 学習教材開発..... 46	
5. 成果発表会..... 47	
6. まとめ..... 48	
<b>第3章</b> ..... 51	
<b>情報モラル指導評価指標開発のための事業</b> ..... 51	
1. 事業の目的..... 52	
2. 作業体制..... 52	
3. まとめ..... 55	
<b>第4章</b> ..... 61	
<b>保護者のための情報モラル事業</b> ..... 61	
1. 事業の目的..... 62	
2. 作業項目とスケジュール/作業体制..... 62	
3. セミナー..... 64	
4. まとめ..... 65	
5. 0歳児からのIT機器利用と保護者の情報モラル(報告書)について..... 65	
(0)調査の目的と概要..... 66	
(1)乳幼児(未学)に利用させている情報機器 (SQ4)..... 67	
(2)スマートフォンの専用・共用使用 (Q1)..... 69	
(3)スマートフォンを使わせている理由 (Q2:子供専用の場合)..... 70	
(4)スマートフォンを使わせている理由 (Q3:親と共用の場合)..... 71	
(5)子供が使っているサイトやアプリ (Q4)..... 72	
(6)子供のスマートフォン利用について心配していること (Q5)..... 74	
(7)ネット活用で期待されるメリット (Q6)..... 75	
(8)スマートフォンを使い始めてからの変化 (Q7)..... 77	
(9)親の機器の使用 (Q8)..... 79	
(10)保護者のスマートフォン利用 (Q9)..... 80	
(1)子どもがスマートフォンを安全かつ有効に活用する力をつけるために (Q10)..... 81	
(2)フィルタリングとペアレンタルコントロールの利用実態 (Q11, 12, 13, 14)..... 84	
(1)3子どものスマートフォン利用における保護者の関わり (Q16-19)..... 87	
(1)4子どもがスマートフォン利用について経験したこと (Q22)..... 93	
(1)5子供からのスマートフォン利用に関する相談に一人で対応できない時の対応 (Q23)..... 95	
(1)6家庭での指導・教育 (Q24)..... 96	
(1)7子どもに期待していること (Q25)..... 99	
(1)8将来、子どもに身につけてほしいスキル (Q26)..... 100	
(1)9保護者のスマートフォン利用 (Q27・28)..... 103	
(2)0親子関係と情報モラル教育のあり方..... 105	
(2)1情報モラルの社会的格差 - 格差化する家庭教育の陥穽..... 120	

② ネット社会の歩き方ユニット教材 (<http://www2.japet.or.jp/net-walk/>)



③ ネット社会の歩き方講師育成セミナーテキスト  
「学習ユニット」教材 (zip形式ファイル)



([http://www2.japet.or.jp/net-walk/otona\\_all.html](http://www2.japet.or.jp/net-walk/otona_all.html))

④ 情報モラルテストシステム

(<http://www.japet.or.jp/ActivityReport/moraltest/>)

・ ログイン画面

---

### 管理者-ログイン画面

学校コード	<input type="text" value="japetcec"/>
管理者パスワード	<input type="password" value="●●●●●●●●"/>

---

・先生用管理画面

### 先生用管理画面

[使い方](#) [ログアウト](#)

:: 管理者-MENU

- A. 受検申請フォーム
- B. 受検パスワードの印刷
- C. 結果データの閲覧
- D. 問題システムダウンロード

・受験申請フォーム

### 先生用管理画面

[メニュー](#) [ログアウト](#)

:: A. 受験申請フォーム

● 受験申請をするとすぐに「管理者-MENU」の「B. 受検パスワードの印刷」から受検票を印刷することができます。

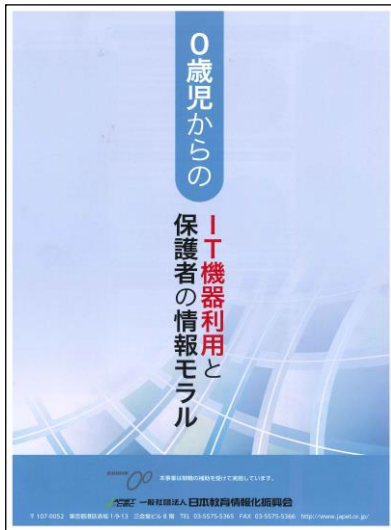
対象	小学生	中学生	高校生	合計
受検者数	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	0

[戻る](#) [確認する](#)

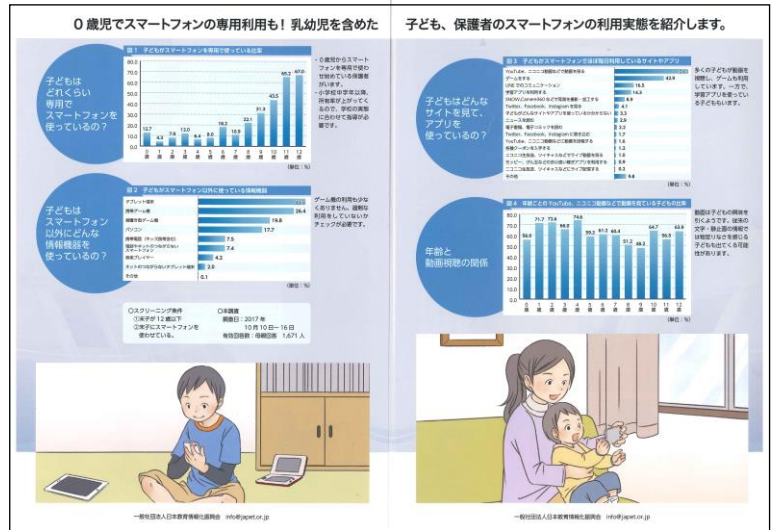


⑤ 保護者のための情報モラル（教材パンフレット）

(<http://www.japet.or.jp/>)



(教材パンフレットの表紙)



(教材パンフレットの内容例)

⑥ ネット社会の歩き方情報モラル カード型ナビ教材

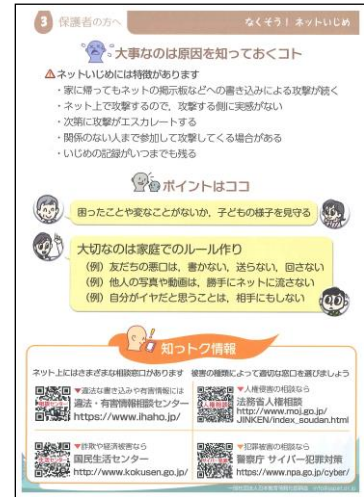
(<http://www.japet.or.jp/>)



(ナビカード教材のカバー)



(教材の例 表面)



(教材の例 裏面)

(2)(1) 以外で当事業において作成したもの  
特になし

#### 4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名 : 一般社団法人日本教育情報化振興会  
(イッパンシャダンホウジンニホンキョウイクジョウホウカシンコウカイ)  
住 所 : 〒107-0052  
東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル 8階  
代 表 者 : 会長 赤堀 侃司 (アカホリ カンジ)  
担当部署 : 調査・研究開発部 (チョウサケンキュウカイハツブ)  
担当者名 : 部長 吉田 真和 (ヨシダ マサカズ)  
電話番号 : 03-5575-5365  
F A X : 03-5575-5366  
E-mail : myoshida@japet.or.jp  
U R L : <http://www.japet.or.jp/>